

令和7年2月28日

作成 高山 幸

日本の伝統文化を学ぶ



令和7年2月25日(火)に、1～3年生は日本の太鼓や踊りの体験に参加しました。6年生の「錦糸ばやし」が本校の伝統となっているため、東京都が推進する「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」の中から、和太鼓の体験を子供たちにさせたいと考えました。民族歌舞団「荒馬座」さんにお越しいただき、1・2・3年生が1時間ずつ和太鼓と民舞の体験学習をしました。

はじめに、和太鼓の叩き方としてバチを持つ場所や握り方を教わりました。更に、腰を落とした姿勢の保持の仕方も教わりました。そして、和太鼓に向かう姿勢、打つ位置や力の入れ方、最後のポーズの決め方まで練習した後、実際に打ってみました。空中での空打ちだけでもわくわくしていた子供たちですが、実際に和太鼓を打ち、その感触や響く音に大喜びでした。

続いて踊りの練習です。「ソーラン節」や「獅子舞」などを教えていただきました。

「ソーラン節」は運動会でお見せするようなロック調のテンポの早い踊りではなく、その本家ともいえる、実際にニシン漁の際に船の上で歌われ、長年、お祭りなどで受け継がれてきたソーラン節を教わりました。動き一つ一つの意味とそれを表現するための動作のポイントを分かりやすくていねいに解説していただきました。



仕上げるに、和太鼓の打ち手・踊り手・観客役に分かれ、それぞれの立場を体験したり、踊りを交えながら打ち手が次々に交代する体験をしたりしました。体育館に響き渡る、迫力のある連打でした。

日本の伝統文化にふれた貴重な時間となりました。この体験をもとに、「ソーラン節」、「錦糸ばやし」を誇りを持って引き継いでもらえたら嬉しい限りです。

荒馬座の皆様、子供たちのためにありがとうございました。

